

「第2次宇都宮市食料・農業・農村基本計画」(素案)に関するパブリックコメントについて

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 意見の募集期間 平成26年2月7日(金)～3月3日(金)
 (2) 意見の応募者数 応募者数：4名(男2, 女2) 意見数：7件
 (3) 提出方法の内訳

	郵送	ファクシミリ	Eメール	持参	電話	計
人数	1	1		2		4

2 意見の処理状況

区分	処理区分	数
A	意見の趣旨等を反映し、実施設計に盛り込むもの	1
B	意見の趣旨等は、計画案に盛り込み済みと考えるもの	4
C	実施設計の参考とするもの	2
D	実施設計に盛り込まないもの	
E	その他、要望・意見等	
	計	7

3 意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
1	<p>【市内飲食店等との連携】 宇都宮は50万の人口を抱え、中心部には、飲食店などが多くある。こうした店でうつのみや産の農産物を使ってもらえる仕組みを構築していただきたい。</p>	B	<p>市内飲食店等におけるうつのみや産農産物の利用については、これまで、地元農産物を販売・提供する「うつのみや地産地消推進店」の認定制度を構築し、現在75店舗が認定され、うつのみや産農産物が身近なものとなるよう努めてまいりました。今後、更に、市民・消費者が、うつのみや産農産物の魅力に触れ、より身近なものと感じられるようにするため、計画書44頁「市内マーケティングの強化」に取り組み、市内市場ニーズの収集・分析を進めるとともに、市内企業等における地元農産物の利用を促進してまいります。</p>
2	<p>【地域特性を活かした生産】 美味しいお米が取れる地域のお米とそうでない地域で取れるお米を同じ宇都宮産のお米として売るのは、北海道など他都市や外国産に負けてしまい、将来的に宇都宮の美味しいお米が食べられなくなるのではないかと不安です。市が上手く融通を図るよう先導して欲しいと思います。</p>	B	<p>地域特性を活かした農産物の生産と付加価値を高める取組みを推進するため、計画書48頁「ブランド商品の生産振興」に取り組み、新たな選別基準の設定によりブランド力を高めるなど、米を含めた重点品目等の品質向上に向けた支援を進めてまいります。また、農地の特性を最大限に活用するため、計画書42頁「戦略的な農地利用の推進」に取り組み、地域ごとの条件に相応しい作物の選定など、適地適作を推進してまいります。</p>

No.	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
3	<p>【農業のイメージアップ】 農業という職は今でも、3K（きつい、汚い、危険）のイメージがあるので、これを払拭しなければ、新たな担い手の確保も難しいと思います。</p>	B	<p>農業のイメージアップには、農作業の効率化、省力化が不可欠でありますことから、計画書 38 頁「組織的な経営体づくりの推進」や計画書 40 頁「高度農業技術の開発支援」に取り組み、職としての農業の魅力を高めてまいります。</p> <p>また多くの市民に本市農業の魅力や大切さを理解していただき、本市農業のイメージアップを図るため、計画書 44 頁「市民が支える仕組みづくり」に取り組み、まずは子どものうちから本市農業に興味・関心を持っていただくよう、学校給食において、うつのみや産の特別栽培米を活用するなど、学校給食等を起点とした地産地消を推進してまいります。</p>
4	<p>【新たな担い手の確保策】 農業を始めるには、多くの資金が必要であることから、ハードルが高く感じてしまいます。農業の会社に雇用され、資金や技術が整ったら独立するような方法で新たな担い手を増やす対策を進めていただきたい。</p>	C	<p>新たな担い手を確保するため、これまで就農前の相談から経営が安定するまで、切れ目のない支援を充実してまいりました。</p> <p>ご意見をいただきました内容につきましては、今後、参入法人等と連携した新たな担い手の確保策として事業化する際の参考としてまいります。</p>
5	<p>【安全・安心なうつのみや産農産物】 原発事故による放射能漏れや冷凍食品の農薬混入など、食の安全性が不安です。</p>	B	<p>市民・消費者への安全な食の提供は、国や県、市の責務であることから、市民・消費者の安心感を高めるため、計画書 40 頁「安全と環境に配慮した農業の推進」に取り組み、農産物の安全性を高める営農を促進してまいります。</p> <p>また、生産者や加工業者等の安全性を高める取組が正しく消費者に届き、市民・消費者が安心してうつのみや産農産物を選んでいただけるよう、計画書 46 頁「安全・安心の見える化」に取り組み、安全・安心への信頼感確保に向けた取組みの強化を進めてまいります。</p>
6	<p>【農業災害】 今回の大雪被害をきっかけにして農業を辞める農家が多くいるようであるが、このような農業災害が起きても復活できる力強い農家を育てて欲しいと思います。</p>	A	<p>農業者が自然災害など不測の事態にも安心して、継続的に生産できるよう、農業共済制度の加入促進など、今回新たに、計画書 40 頁「農業経営力の向上」におきまして、農業災害への対応を盛り込みました。</p> <p>また、宇都宮の産地を守る観点から、後継者がいない廃業する農業者につきましては、これまで培った技術や施設等を円滑に第三者に継承されるよう、計画書 42 頁「農業生産施設等の効率化」に取り組み、農業継承の円滑化を進めてまいります。</p>

No.	意見の概要	処理区分	意見に対する市の考え方
7	<p>【農村の多面的機能の提供】 宇都宮は、郊外に行くと意外に田んぼや山があり、見るだけで日々の疲れが癒される感覚があります。こうした癒しの効果を広く一般に広めるため、例えば、市内外企業の福利厚生事業の一環として、田舎特有の遊びができるような取組みなど、都会の人が田舎を体験できる企画を考えていただきたいと思います。</p>	C	<p>農業・農村が持つ多面的機能を広く市民等に提供する取組みは、本市農業の継続性を高めるとともに、農村地域の活性化にとっても重要であると考えております。</p> <p>ご意見をいただきました内容につきましては、今後、計画書 52 頁「都市と農村の交流促進」の取組みとして事業化する際の参考としてまいります。</p>